

③ 管理的側面（表4）

看護実践における管理的側面については、それぞれの科学的・法的根拠を理解し、チーム医療における自らの役割を認識した上で実施する必要がある。

		★	到達の目安		
安全管理	①施設における医療安全管理体制について理解する	★			I
	②インシデント（ヒヤリ・ハット）事例や事故事例の報告を速やかに行う	★			I
情報管理	①施設内の医療情報に関する規定を理解する	★			I
	②患者等に対し、適切な情報提供を行う	★		II	
	③プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱う	★			I
	④看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する	★		II	
業務管理	①業務の基準・手順に沿って実施する	★			I
	②複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動する			II	
	③業務上の報告・連絡・相談を適切に行う	★			I
	④決められた業務を時間内に実施できるように調整する			II	I
薬剤等の管理	①薬剤を適切に請求・受領・保管する（含、毒薬・劇薬・麻薬）			II	I
	②血液製剤を適切に請求・受領・保管する			II	I
災害・防災管理	①定期的な防災訓練に参加し、災害発生時（地震・火災・水害・停電等）のは決められた初期行動を円滑に実施する	★		II	
	②施設内の消火設備の定位置と避難ルートを把握し患者に説明する	★			I
物品管理	①規定に沿って適切に医療機器、器具を取り扱う	★		II	
	②看護用品・衛生材料の整備・点検を行う	★		II	
コスト管理	①患者の負担を考慮し、物品を適切に使用する	★		II	
	②費用対効果を考慮して衛生材料の物品を適切に選択する	★		II	

3) 到達目標の設定の手順

到達目標を設定する上で、病院の施設規模・機能・理念、看護部の理念、看護職員の構成、新人看護師を支えられる体制、新人研修にかけられる時間・予算、目指す看護師像（どんな新人に育ててほしいのか）を考慮する。また、到達目標は、①項目→②詳細さ→③難易度→④到達時期の順に検討する。以下、順に説明する。

① 項目の設定例		
A病院	B病院	C病院
活動休息援助技術 ①歩行介助・移動の介助・移送 ②体位変換 ③体動、移動に注意が必要な患者への援助	活動休息援助技術 ①歩行介助・移動の介助・移送 ②体位変換 ③関節可動域訓練・廃用性症候群予防 ④入眠・睡眠への援助 ⑤体動、移動に注意が必要な患者への援助	活動休息援助技術 ①歩行介助 ②車椅子による移送 ③ストレッチャーの移送 ④体位変換 ⑤関節可動域訓練・廃用性症候群予防 ⑥入眠・睡眠への援助 ⑦体動、移動に注意が必要な患者への援助 ⑧プレイルームでの遊びの援助

活動休息援助技術の到達目標における項目の設定を行う。到達目標の一覧を参考に自施設の特性を踏まえて設定する。一年以内に経験し修得を目指す項目を設定する場合（A病院）、到達目標の全てを設定する場合（B病院）、さらに追加して設定する場合（C病院）などがある。

② 詳細さの設定例:「車椅子による移送」

パターンⅠ	パターンⅡ	パターンⅢ
車椅子による移送	車椅子による移送	車椅子による移送
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 車椅子の準備ができる 2. ボディメカニクスの原理・原則を述べるができる 3. 患者の状況や状態に応じた移送ができる 4. 差動心に配慮した対応ができる 5. 危険の回避が出来、安全に対する留意事項がわかる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 車椅子の構造や使用方法を述べるができる 2. 患者の状況に応じた必要物品が準備出来る(酸素ボンベ・点滴スタンド・廃液バケツカバなど) 3. ボディメカニクスの原理・原則を述べるができる 4. 患者に車椅子乗車と行き先を説明できる 5. 患者の身支度を整えることができる 6. 差動心に配慮した対応ができる 7. 車椅子や必要物品の準備ができる(車椅子を20〜30度の角度で置き、フットレストを上げ、ブレーキをかける) 8. 患者の状態やルート類などに注意して移送できる 9. 乗車後、患者の状態を観察し、点滴ルート、酸素などの確認行動ができる 10. 患者へ声かけを行いながら、移送介助ができる 11. 段差や傾斜時の対応ができる 12. 移送介助後の患者の観察ができる

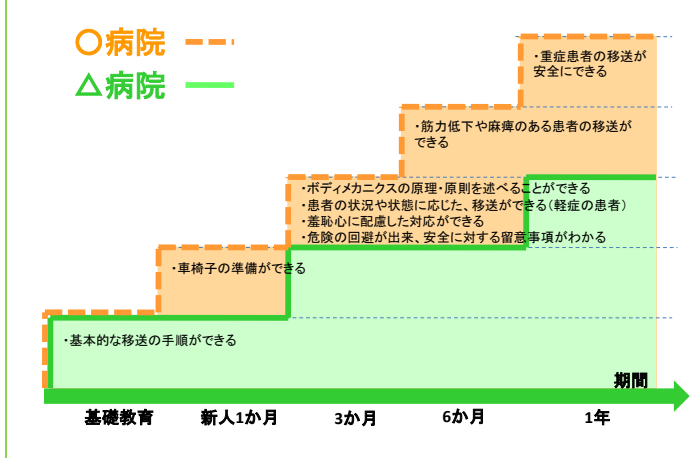
① で設定した項目毎に詳細さを設定する。各項目をそのまま設定する場合（パターンⅠ）、やや詳細に設定する場合（パターンⅡ）、手順に沿って詳細に設定する場合（パターンⅢ）などがある。

③ 難易度の設定例:「車椅子による移送」

タイプⅠ	タイプⅡ	タイプⅢ
状態が安定している患者	状態に変化のある患者 重症度が中等度の患者	重症・急変の恐れのある患者
<ul style="list-style-type: none"> ■18歳 女性 貧血 安静度:院内フリー 	<ul style="list-style-type: none"> ■筋力低下でふらつきあり ■左片麻痺がある患者 ■下肢に強度の浮腫があり、皮膚が脆弱 ■起立性低血圧で転倒歴あり 	<ul style="list-style-type: none"> ■脳神経外科の手術後で循環動態の変化が大きい患者 ■大腿部頸部骨折で体重が100キロ ■複数の点滴ラインあり、シリンジポンプ使用、酸素投与中

設定した項目の到達を判定する時の基準となる、難易度を設定する。

④ 到達時期の設定例:「車椅子による移送」



いつまでにその項目を到達するか、到達時期を設定する。